# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2013年 3月

「パートⅠ－贖罪の犠牲（Ⅲ）」「サタンと大反逆」「聖霊の降下『前と後の雨』」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次


今月の聖書勉強　「パートI－贖罪の犠牲（III）」　4

朝のマナ　「サタンと大反逆」　7
信仰によってわたしは生きる

現代の真理　「聖霊の降下『前と後の雨』」　39
最後の出来事

力を得るための食事　「クレープでサラダパーティ」　52

お話コーナー　「神さまの保護というすまい」　54



教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp



発行日　2013 年 2 月 28 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;
HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

# この偉大な真理をつかむことは

罪人はイエスの功績を通してのみ義認される。そしてこれが人のために支払われた贖い代の完全さを神が認めてくださるものなのである。キリストが十字架の死に至るまで従順であられたことは、悔い改めた罪人が御父に受け入れられることの担保である。そうであれば、わたしたちは疑っては信じ、信じては疑うといったゆれ動く経験を自らにゆるしてよいものであろうか。イエスは、わたしたちが神に受け入れられることの担保であられる。わたしたちは自分自身のうちに功績があるからではなく、「主われらの義」を信じる信仰のゆえに、神のみ前に恩寵を受けるのである。……

イエスを信仰によって眺める魂は、自分自身の義を認めない。彼は自分自身が不完全であることを認め、自分の悔い改めが不十分で、自分の最も強い信仰が弱々しいものにすぎないこと……を認めて、十字架の下にへりくだりのうちに沈む。しかし、神のみ言葉の託宣から彼にみ声が語られる。驚きのうちに、彼は次のメッセージを聞く、「あなたは彼にあって完全である」。今や彼の魂はまったく休まる。もはや自分のうちに何かの価値を、すなわち神の恩寵を得るための功績のある行いを見出そうと苦闘することはない。

世の罪を取り除く神の小羊を見るとき、彼はキリストの平和を見出す。なぜなら、許しが自分の名のところに書き込まれ、彼は次の神のみ言葉を受け入れるからである、「あなたがたは、キリストにあって、それに満たされている（完全である）」（コロサイ 2:10 英語訳）。疑いを心に抱くことに慣れている人類にとって、この偉大な真理をつかむことはなんとむずかしいことであろう！しかし、それはなんという平安、なんという活力に満ちた命を、魂をもたらすことであろう。神に受け入れられるための義を求めて、自分自身を見るなら、わたしたちは間違った場所を見ているのである。「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」（ローマ 3:23）。わたしたちはイエスを見なければならない。なぜなら、「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」（コリント第二 3:18）。あなたは自分の完全さを、世の罪を取り除く神の小羊をながめることによって見出すのである。（信仰と行い 107, 108）

贖罪

# パート I －贖罪の犠牲（III）

## V. 罪と刑罰は身代わりに移された

十字架上で死なれることによって、聖なる身代わりを自分の個人的な贖い主だと信じる信仰を通して、このお方は、律法に違反した人から聖なる身代わりであられるお方に罪を移された。「緋のように赤い」ものとして象徴されている罪深い世の罪は、神聖な保証人に着せられた。（原稿 84a, 1897）

聖なる神のみ子には、負われるべきご自身の罪や悲しみはなかった。このお方は他の者の罪を負っておられたのである。なぜなら、神聖な同情を通して、このお方は自らを人と結びつけ、人類の代表として、このお方は違反者として扱われることに甘んじられた。このお方は、わたしたちの罪によって、わたしたちに開かれた苦悩の深淵の深さをご覧になり、人の神からの分離という深淵に橋を架けることを申し出ておられる。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰとｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 8 月 1 日）

このお方は罪がもたらした恐るべきわざに、恐怖で圧倒された。人間が御父の律法を犯したがゆえの罪の重荷はあまりにも大きかったので、人性はとてもそれを負うことはできなかった。殉教者の苦しみは、キリストの苦悩とは比較にならない。彼らの苦悩においては、聖なるご臨在が彼らと共にあったが、御父のいとし子からは御父のみ顔が隠されたのである。（同上）

ゲッセマネの園で、キリストは人の代わりに苦しまれた。そして神の御子の人性は罪の罪深さという恐るべき恐怖の下でよろめいた。……

人の身代わりであり保証人であるお方に、正義の報復を課した力は、罪深い世の上に降りかかるはずだった怒りの恐るべき重さの下に苦しんでおられたお方を支え、保つ力であった。キリストは神の律法の違反者たちに宣告された死に苦しんでおられた。（原稿 35, 1895 年）

何が裏切りと裁判のときに神の御子を支えたのであろうか。このお方はご自分の魂の苦しみにより、光を見て満足された。このお方は永遠の広がりを視野にとらえ、ご自分の屈辱を通して許しと永遠の命を受けることになる人々の幸福をご

覧になった。このお方は彼らのとがのために傷つけられ、彼らの不義のために砕かれた。このお方は自ら懲らしめを受けて、彼らに平安を与え、その打たれた傷によって彼らはいやされた。このお方の耳は、贖われた者たちの叫び声をとらえた。このお方は贖われた者たちがモーセと小羊の歌を歌っているのを聞いた。(教会への証 8 巻 43, 44)

## VI. キリストは犠牲の捧げものであり、かつ務めを行う祭司であられる

キリストの無限の価値は、このお方が全世界の罪を担われることによって表されている。このお方は捧げるものと、捧げもの、すなわち祭司と犠牲という二重の立場を占めておられる。このお方は聖であり、無垢であり、汚されておらず、罪人からはわかたれておられた。「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」とこのお方は宣言なさる。(手紙 192, 1906 年)

大祭司が、豪華な大祭司の衣をわきへおいて、一般の祭司の麻布の白い衣をまとって務めをなしたように、キリストもみずからをむなしくされ、しもべのかたちをとり、犠牲を捧げられた。このお方ご自身が祭司であり、また犠牲であられた。(ｻｻﾞﾝ・ｳｫｯﾁﾏﾝ 1903 年 8 月 6 日)

## VII. 贖罪における中心、十字架

十字架は、中心地を占めなければならない。なぜなら、それは人の贖罪の手段だからであり、またなぜなら、その感化力が神聖な統治の到るところに働くからである。(教会への証 6 巻 236)

キリストの贖罪は、わたしたちの罪を許すためのたくみな方法であるばかりでなく、不法を癒し、霊的な健康を回復するための神聖な治療法である。それはキリストの義をわたしたちの上だけでなく、わたしたちの心と品性の中にもたらす天の定めた 手段である。(手紙 406, 1906 年)

血を流すことなしには、罪の許しはあり得ない。このお方は十字架上で公衆の面前で死の苦悩にあわなければならなかった。 それはその目撃者に疑いの陰を残さないためであった。(原稿 101, 1897 年)

アダムは、誘惑者の言葉を聞いて、彼のほのめかしに屈し、罪に陥った。な

ぜ彼の裁きにおいて、死刑が直ちに執行されなかったのであろうか。それは、贖い代が見出されたからである。神のひとり子がみずから、ご自身の上に人の罪を取られ、堕落した人類のために贖罪をなさった。この贖罪がなければ、罪のための許しはあり得なかったのである。神が贖罪なしにアダムの罪を許していたとしたら、罪は不死のものとなり、抑制なく大胆に永続化したはずであった。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 4 月 23 日)

天の会議において、十字架が贖罪の手段として定められた。これは人をご自分に勝ち取るための神の手段であった。キリストは人性のうちに神の聖なる律法を守ることができることを示すためにこの地上に来られた。(原稿 165, 1899 年)

キリストは、失われた世界を救うための贖罪の犠牲としてご自身をおささげになった。(教会への証 8 巻 208)

# 信仰によってわたしは生きる

*The Faith I Live By*

3月　「サタンと大反逆」

# 反逆の発生

**「ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。」（イザヤ59:2）**

悪は神の統治に対し反逆したルシファーから始まった。ルシファーは堕落する前は、その優秀なことで認められていた守護のケルビムであった。神は彼をできる限りご自分に似た、りっぱな美しい者に造られた。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]4 巻 1163）

聖書の中に何よりもはっきり教えられていることは、罪が入ってきたことに対して神にはなんの責任もないということ、すなわち神の恵みが独断的にとり去られたり、神の統治に欠陥があったりしてそれが反逆の発生のきっかけになったのではないということである。罪は侵入者であって、その存在については理由をあげることができない。それは神秘的であり、不可解であって、その言いわけをすることは、それを弁護することになる。もし罪の言いわけがあったり、その存在の原因を示すことができたら、それはもはや罪ではなくなる。（各時代の大争闘下巻 228）

最初の罪人は神が非常に高い地位につかせておられた者であった。彼はその勢力と壮麗な美しさで繁栄しているツロの君の姿で表わされている。サタンは少しずつ自己称揚への欲望にふけるようになった。……彼の持つ栄光はすべて神から来たものであったにもかかわらず、この力ある天使は、この栄光が自分に備わっているものであると考えるようになっていった。天の万軍にまさって名誉を受けていたにもかかわらず、サタンは自分の立場に満足せずに、当然創造主にだけ与えられるべき尊敬をあえてむさぼった。すべての被造物の愛情と忠誠のうちに神を至高の存在にしようとする代わりに、彼は彼らの奉仕と忠節を自分自身に向けようと努力した。……

彼〔サタン〕は最初の神からの大背信者ではないであろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]4 巻 1162, 1163）

すべての悪の働きが出発点を見出し、その支持を得るのは、ルシファーの座においてである。（手紙 1895 年 43）

# 権力欲は不幸をもたらす

**「主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみも加えない。」（箴言10:22）**

ルシファーは……反逆する前は、栄誉において神の愛し子に次ぐ者であって、高貴な地位の高い天使であった。他の天使たち同様、彼の顔は穏やかで、幸福を表わしていた。彼の額は高く、広く、すぐれた知性を示していた。彼の姿は完全であった。立ち居ふるまいは気高く、威厳があった。特別な光が彼の顔に輝き、周りにいる他の天使たちよりも、もっと明るく、もっと美しく彼の周りを照らしていた。けれども、神の愛する御子であられるキリストはすべて天の万軍にまさって傑出しておられた。このお方は天使が造られる前に、み父と一つであられた。……

ルシファーはイエス・キリストを羨み、妬んだ。それでも、天使たちが皆キリストの至上権と崇高な権威、また正当な統治を認めて、イエスのみ前にひざまずいたとき、彼も共にひざまずいた。しかし、彼の心は嫉妬と憎しみで満たされていた。……なにゆえ自分よりもキリストがあがめられるべきなのか。（生き残る人々13, 14）

天にあってルシファーは力と権威において第一人者であることを望んだ。彼は神であることを願い、天の支配権を持つことを願った。そしてこの目的のために、彼は自分の側に多くの天使を引き入れた。反逆に加わった天使たちと共にルシファーが神の宮廷から追い出されたとき、反逆と自己追及の働きは地上で続けられた。放縦と野心への誘惑を通してサタンはわたしたちの最初の両親の堕落を果たした。そしてそのときから現代に至るまで、人間の野心を満足させ、身勝手な希望や欲望にふけることは、人類の破滅であることが証明された。（両親、教師そして生徒への勧告32, 33）

自分に栄光を帰すことを求める者は、自分が神の恵みに欠けていることを見出すであろう。われわれは神の力によって、真の富と最も満足感のある喜びを味わうことが出来るのである。すべてをキリストのために献げて、キリストのためにすべてをなす人は、「主の祝福は人を富ませる。主はこれになんの悲しみも加えない」という約束が成就されるのを知るであろう（箴言10:22）。（国と指導者上巻35）

# 高ぶりは倒れに先立つ

**「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ。」（箴言 16:18）**

サタンは神と等しくなりたいという野心を抱いたために堕落した。彼は天の会議や神のご計画に参加したいと望んだが、被造物として、無限の方であられる神の知恵を理解するには彼自身に能力がないために、このような相談や計画から除外された。彼を反逆へと導いたのはこの野心的な自尊心であった。そして同じ方法で彼は人間を破滅させようとしている。（教会への証 5 巻 702）

罪は利己心から起った。おおうことをなす天使ルシファーが天の第一位を望んだ。彼は天使たちを支配し、彼らを創造主からひき離して、自分に忠誠を誓わせようと試みた。そこで彼は神について悪宣伝し、神にはいばりたいという野心があるのだと言った。彼は自分自身の邪悪な特徴を愛の神におしつけようとした。（各時代の希望上巻 4）

もしルシファーが、ほんとうにいと高き神のようになろうと望んだのだったら、彼は決して天における自分の定められた地位を捨てなかったであろう。なぜなら、いと高き神の精神は、無我の奉仕のうちにあらわされるからである。ルシファーは、神のご品性を望んだのではなくて、神の権力を望んだのであった。彼は自分のために最高の地位を求めたが、彼の精神に動かされる者はだれでもみなこれと同じことをするのである。（各時代の希望中巻 211, 212）

誇りと野心を抱くときに、人は人生において必ず失敗する。というのは、誇りは必要を感じないので、天の無限の祝福に対して心を閉ざしてしまうからである。（国と指導者上巻 35）

心の高ぶりは恐ろしい性格の特徴である。「高ぶりは滅びにさきだ」つ。これは家庭においても、教会においても、また国家においても真実である。（教会への証 4 巻 377）

神の民は互いに仕えるべきである。彼らは互いに忠告しあって、一人の不足を他の者の充足で補うべきである。（福祉奉仕 202）

神は高ぶりを嫌われる。……高ぶる者やよこしまなことをする者はみな刈り株となり、来るべき日に焼き尽くされるのである。（教会への証 1 巻 132）

「わたしに学びなさい」とキリストは言われた。「わたしは柔和で心のへりくだったものであるから、……そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」（マタイ 11:29）。（教会への証 4 巻 376）

# 真実でないことに対し、用心せよ！

**「すなわち、立って真理の帯を腰にしめ」（エペソ 6:14）**

神は、不満の精神が熟して行動的な反逆になるまで、サタンが働きを進めることをお許しになった。サタンの計画の性質と傾向がどんなものであるかが、すべての者に理解されるように、その計画が十分に実行される必要があった。……彼の欺瞞の力は非常に大きかった。彼は、欺瞞の外とうに身を隠して、自分の側を有利に導いていった。彼の行動は、すべて、神秘で包まれていたので、天使たちにとって、彼の働きの真の性質を見破ることはむずかしかった。……神のみこころに関して巧妙な議論をして当惑させることが、彼の方針であった。彼は、単純なことをみな不可解にし、巧妙な曲解悪用によって、エホバの明白な言葉に疑惑を投げかけた。（人類のあけぼの上巻 13, 14）

この裏面工作は非常に巧妙であったため、その実態のままに事が天使たちの前にあらわれてこなかった。そのために天で戦いが起り、神の統治に忠誠の立場を取らなかったすべての天使たちと共にサタンは追い出された。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]4 巻 1143）

真実でない発言をするすべての者に、わたしは彼らが、初めから偽り者であるサタンに仕えているのであることを警告するように命じられている。真実でないことに対し、用心しよう。これは実践するほど益々高じてくる。わたしはすべての人に、真理をあなたの帯とせよ、と申し上げる。……言い逃れや誇張をすべて排除しなさい。決して虚偽の発言をしてはならない。（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ原稿 82, 1900）

欺こうとする意図が虚偽となるのである。目つき、手の動き、顔の表情によって、ことばと同じように効果的にうそが語られるかもしれない。わざと誇張されたしゃべり方、まちがった印象あるいは誇張された印象を伝えるように計画された暗示やほのめかし、事実であっても誤解を招くような言い方などはすべて虚偽である。（人類のあけぼの上巻 361）

わたしたちがまもなく、加わりたいと願っている社会、すなわち、罪によって一度も堕落したことのない神の天使たちの住む社会を手本とする努力が、たゆまず行われるべきである。品性は気高くなり、態度は優美に、また言葉はきずのないものとなるべきである。こうして、わたしたちは昇天にふさわしくなるまで、一歩一歩み足の跡に従うべきである。（教会への証 1 巻 216）

# 罪―はなはだしく罪深いもの

**「罪は、戒めによって、はなはだしく悪性なものとなる」（ローマ 7:13）**

恵み深い神は、大いなるあわれみをもって、長い間ルシファーを忍ばれた。不平と不満の精神は、これまで天において起ったことがなかった。それは、初めての不可解な、説明することのできない新しい要素であった。

はじめのうちはルシファー自身も、自分の感情の真の性質を理解することができず、しばらくは、自分の心の動きや思いを口にするのを恐れたが、その気持ちを一掃しようとはしなかった。彼は、自分がどこまで迷って行くのか見当がつかなかった。しかし、無限の愛と知恵の神の力が、彼の非を認めさせるために用いられた。彼の反逆には、正当な理由がないことが明らかにされ、また、彼が、反逆を続けるならば、どんな結果になるかが彼に示された。ルシファーは、自分の非を認めた。彼は、「主はそのすべての道に正しく、そのすべてのみわざに恵みふかく」、神の律法は、正しいものであること、そして、それを全天の前で認めなければならないことを知った（詩篇 145:17）。……彼は、もう少しで立ちかえる決心をするところであったが、彼のプライドがゆるさなかった。……彼は、あくまでも、自分の行為の正当を主張し、創造主に対して大争闘をいどんだ。……

サタンの反逆は、来るべきすべての時代にわたって、宇宙に対する一つの教訓、すなわち、罪の性質とその恐るべき結果についての永遠の証明となるべきであった。サタンの支配の結末とそれが人と天使におよぼした影響は、神の権威を取り除いた結果がどうなるかを示すのであった。それは、神に造られたすべてのものの幸福が、神の統治の存在と結びついていることを証言するのであった。こうして、この恐るべき反逆の歴史は、すべて聖なる者たちを永久に守るものとなり、彼らが罪の性質に関して欺かれることがないようにし、罪を犯し、その罰を受けることがないように、彼らを救うものとなるのであった。（人類のあけぼの上巻 10～15）

わたしたちの贖いのために要求された犠牲の無限の価値は、罪がおそるべきほど大きな悪であることを表わしている。（教会への証 6 巻 66）

# 生か死か

**「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。」（ローマ 6:23）**

無限にして全知であられる神は、初めから終わりを見通される。そして、悪を処理なさる神の計画は、遠大で包括的である。神の目的は、反逆をしずめることだけでなくて、全宇宙に反逆の性質を実証することであった。……神の戒めを捨てたすべてのものは、キリストに敵対するサタンの側についていたことを知る。この世の君が裁かれるとき、彼と結合したすべてのものは、彼と運命を共にする。そのとき、全宇宙は、その宣告の証人として「万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」というのである（黙示録 15:3）。（人類のあけぼの上巻 73, 74）

審判が最終的に執行されるとき、罪の理由は存在しないことが明らかになる。全地の審判者が、サタンに向かって「あなたはなぜわたしにそむき、わたしの国の民を奪ったのか」と問いただされるとき、悪の創始者であるサタンはなんの言いわけもできない。どの口も閉じられ、反逆者の全軍は言葉もないのである。……全宇宙は、罪の性質とその結果について証人となるであろう。罪を徹底的に根絶することを、世の初めだったら天使を恐れさせ、神の栄を汚したであろうが、いまでは、……宇宙の全住民の前に、神の愛を立証し、そのみ栄を確立するものとなる。もはや悪は再び現れてこない。「患難かさねて起らじ」と聖書には言われている（ナホム 1:9 文語訳）。……試練を通り越してきた被造物は、計り知れない愛と限りない知恵のお方としてそのご品性が自分たちの前に十分にあらわされた神に対し、忠誠をひるがえすようなことはもはや二度とないのである。（各時代の大争闘下巻 241, 242）

神の律法に対し不従順の道を選ぶ者は、将来の運命を自分で決めているのである。彼は肉にまいているのであり、罪の支払う報酬、すなわち永遠のいのちの正反対である永遠の滅びを得ているのである。神に屈服し、神の聖なる律法に従順である者には、確かな結果がもたらされる。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」（ヨハネ 17:3）。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 376）

# 反逆は鎮められる

**「平和の神は、サタンをすみやかにあなたがたの足の下に踏み砕くであろう。どうか、わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。」（ローマ16:20）**

アダムがサタンのたくらみに自分の思いを明け渡して以来、義と悪、神とサタンの間で闘争が激しく続いている。義を行うことに、サタンが打ち負かすことのできない力が結びついている。義には神聖な活力がある。真理はついには欺瞞に勝利し、神は敵を打ち破られる。（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ原稿 82, 1900）

キリストはわたしたちのためにサタンに打ち勝たれた。……キリストはサタンより強大なお方であって、まもなく彼をわたしたちの足の下に踏み砕いてくださる。（教会への証 3 巻 526）

神が、神の恵みを拒否する人々を最終的に滅ぼされるのは、宇宙に対するあわれみからである。（各時代の大争闘下巻 294）

「主は悪しき者の上に炭火と硫黄とを降らせられる。燃える風は彼らがその杯にうくべきものである」（詩篇 11:6）。（同上 459）

義人の嗣業は生命であるが、悪人が受けるものは死である。モーセは、イスラエルに次のように宣言した。「見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災いをあなたの前においた」（申命記 30:15）。この聖句の中で言われている死は、アダムに宣告された死ではない。なぜなら、全人類が彼の罪の報いを受けているからである。永遠の生命と対照されているのは、「第二の死」である。（同上 294）

きよめの火によって、悪人たちは根も枝もついに滅ぼされる。サタンが根であり、サタンに従う者たちが枝である。律法の刑罰は全部くだり、正義の要求は果たされた。天と地はこれを見て、エホバの義を宣言する。（同上 460）

サタンの破壊の働きは、永久に終わりを告げた。六千年の間、彼は自分の意志を実行し、地を災いで満たし、全宇宙を悲しませてきた。被造物全体が共にうめき、共に産みの苦しみをしてきた。今や神の被造物は、サタンの存在と誘惑から永久に解放された。（同上 460）

あなたの人生の目的は、贖われた人々や聖天使たち、そして世の贖い主であられるイエスとの交わりに自分をふさわしい者とすることであるべきである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1889 年 4 月 8 日）

# 人の不従順

**「ただ願わしいことは、彼らがつねにこのような心をもってわたしを恐れ、わたしのすべての命令を守って、彼らもその子孫も永久にさいわいを得るにいたることである。」（申命記 5:29）**

サタンが彼と共に堕落した悪天使たちと天から追放された後、彼は天の純潔と栄光をすべて永遠に失ってしまったことに気がついた。……

彼は自分の手下である悪天使たちと相談した。そして、なおも神の統治に逆らって働く一つの計画が立てられた。アダムとエバは美しい園に置かれたとき、サタンは彼らを破滅させようと計画をたてていた。……

サタンは自分の仕事をエバから始め、彼女を不従順にしようとした。エバはまず、夫から離れて歩き回るという間違いを犯し、次に禁じられている木の周りでぐずぐずして、続いて誘惑者の声に耳を傾け、ついには神が仰せになったこと「それを取って食べると、きっと死ぬであろう」という言葉をあえて疑うまでになった。彼女は、おそらくは主が仰せになった通りの意味ではないであろうと思った。彼女はあえて不従順へとふみきった。彼女は手を伸ばして、その果物を取り、食べた。……彼女は果物を夫に与えた。それによって、彼女は夫を誘惑したのである。……

わたしは悲しみがアダムの表情に浮かんだのを見た。彼は驚き、恐れたように見えた。彼の思いの中で苦闘が起っていることが表情からうかがえた。彼は……自分の妻が死ななければならないことに気がついた。彼らは別れなければならない。エバに対するアダムの愛は強かった。失意落胆して彼は、エバと運命を共にすることを決めた。彼はその果物をつかみ取り、急いで食べた。その時サタンは勝ち誇った。……

エバに対する愛を通じて、アダムは神の戒めにそむき、彼女と共に堕落した。（霊的賜物 1 巻 18 ～ 21）

サタンは正反対の詭弁を弄しているが、神に従わないことは、つねに悲惨なことである。われわれは真理が何であるかを知るように心がけなければならない。神がみ言葉の中にお書きになったすべての教訓はわれわれを警告し教えるためである。それらは、われわれを欺瞞から救うために与えられた。それを学ばないならば、身の破滅をもたらす。神のみ言葉に反するものは、みな、サタンから出たものであると思ってまちがいない。（人類のあけぼの上巻 42）

# 罪人の道

**「善良な賢い者は恵みを得る、しかし、不信実な者の道は滅びである。」（箴言13:15）**

人が堕落したという知らせは天をかけめぐった。琴の音は止んだ。天使たちは悲しんで自分たちの頭から冠を投げ捨てた。全天が騒然となった。この罪を犯した二人の取り扱いについて協議がなされた。アダムとエバが生命の木の実に手を伸ばして食べ、永遠に罪人となるのではないかと天使たちは恐れた。しかし、神は園からこの罪人たちを追い出すと仰せになった。天使たちはすぐに生命の木への道を守るよう命じられた。アダムとエバが神に対して不従順になり、神の不興をこうむって、その上で生命の木の実にあずかるように導き、二人が永遠に罪と不従順のうちに生き続けて、罪が不滅のものとなることがサタンの計画であった。しかし聖天使たちが二人を園から追い出すために遣わされ、また別の天使の一群は、生命の木への道を守るよう命じられた。……

サタンは勝ち誇った。彼は自分の堕落によって他の者を苦しめた。彼は天から閉め出されたが、彼らはエデンの園から閉め出された。（霊的賜物1巻21, 22）

不法によりアダムはエデンの園を失った。神の戒めに対する不法により、人は天国を失い、永遠の至福を失うことになる。このことは根拠のないおとぎ話ではなく、真実である。……わたしはお尋ねするが、あなたはどちらの側に立っているのだろうか。（牧師への証141）

「不信実な者の道は滅びである。」しかし、知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」（箴言13:15, 3:17）。キリストに服従する行為、キリストのための自己犠牲のすべての行為、耐え抜いたすべての試練、誘惑に対する勝利は、ことごとく、輝く最後の勝利へ前進する一歩である。わたしたちがキリストを導き手とするならば、キリストはわたしたちを安全に導かれる。（祝福の山174）

# 贖いについての最初の約束

**「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」（創世記3:15）**

贖罪に関する最初の予告が、人間に与えられたのは、園でサタンに宣告が下されたときであった。主は言われる。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」（創世記3:15）。アダムとエバが聞いているところで語られたこの宣告は、彼らにとっては、約束であった。そこには、人間とサタンとの戦いが予告されていたが、この大敵の力がついに砕かれることが宣告されていた。……

アダムとエバは、大きな罪を犯したにもかかわらず、サタンのなすがままに放任されてはいないという保証が与えられた。神のみ子が、彼らの罪を贖うために、ご自身のいのちを提供されたのである。彼らに恵みの期間が与えられ、悔い改めとキリストを信じる信仰によって、彼らは、ふたたび、神の子となることができるのであった。（人類のあけぼの上巻58, 59）

人がサタンの誘惑を受け入れて、神がしてはいけないと仰せになっていたことをするとすぐに、神のみ子であられるキリストは生ける者と死者との間に立って、「刑罰をわたしに下してください。わたしが身代わりになります。人にもう一度機会が与えられるように」と仰せになった。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1巻1085）

罪が生じるや否や、そこに救い主がおられた。キリストはご自分が苦しまねばならないことを知っておられたが、それでも人の身代わりとなられた。アダムが罪を犯すとすぐ、神のみ子は、ご自分がカルバリーの十字架上で死なれたときとまったく同様の、罪人の上に宣告された運命を転じる力をもって、人類の保証人としてご自身を差し出された。（同上1084）

未来には死のとばりのような陰鬱と暗闇がたれこめていたが、贖い主のみ約束のうちに希望の星が暗い未来を照らした。福音は最初にキリストによって、アダムに伝えられた。アダムとエバは自分たちの罪に対し心から悲しみ、後悔していた。彼らは神の尊いみ約束を信じ、完全な滅びから救われた。（同上）

# とこしえからの救い主

**「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、」（エペソ 1:3, 4）**

人間が堕落して以来、主は贖いのご計画、すなわち、人を元の完全さに回復させようとするご計画を実行してこられた。十字架上におけるキリストの死によって、神が悔い改める魂を皆、受け入れ、許すことが可能になった。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1901 年 6 月 12 日）

キリストが十字架の上で苦しんでおられたとき、天使たちは彼の周りに集まった。そして、彼らがこのお方を見つめ、このお方の叫び声を聞いたとき、強い感情に動かされて、「主なるエホバはこのお方をお救いにならないのだろうか」とたずねた。……そのとき次の言葉が語られた、「主は誓われた。そしてこのお方が悔いられることはない。御父と御子は永遠の契約の言葉を成就すると誓っておられる。神はそのひとり子を賜ったほどにこの世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである」。キリストはこの大きな犠牲を払われるにあたり、お一人ではなかった。これは地の基が据えられる前にキリストと御父の間で交わされた契約の成就であった。キリストと御父は手を握り、もしも人類がサタンの詭弁に打ち負かされたら、キリストが彼らのための保証人となるという厳粛な誓いを結ばれたのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1900 年 6 月 14 日）

人類の救いは、いつも天の会議の目的であった。地の基が据えられる前に憐れみの契約はなされていた。この契約は永遠の昔から存在しており、永遠の契約と呼ばれている。神がおられない時というものはなかったように、人類に神の憐れみをお示しになることが、永遠のみ思いの喜びとならないことは一瞬たりともなかった。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]7 巻 934）

わたしたちがこの主題を考えれば考えるほど、より深いことを見出すのであるが、なおわたしたちが贖い主の栄光を学ぶとき、まだ、到達していない奥深さがあるのである。それは命の君の栄光であって、どれほど権力を持った者もそれには及び得ない。天使たちも人類の贖いというこの神秘的な素晴らしい主題を知りたいと望んでいる。（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ原稿 128, 1897 年）

# 人を贖う為の神のご計画

**「わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう。」（創世記 17:7）**

聖書には、永遠の不変の律法と、仮の一時的な律法の二つの律法が示されているのと同様に、契約にも二種類ある。恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が堕落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪の許しを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして家長たちは、救いの希望を与えられたのである。

この同じ契約は、アブラハムにくり返されて、「地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう」という約束が与えられた（創世記 22:18）。この約束はキリストを指し示したものだった。アブラハムはこのことを理解し、キリストにたよって罪のゆるしを求めた。彼が義と認められのはこの信仰であった。アブラハムの契約は、神の律法の権威をも維持した。主は、アブラハムに現れて、「わたしは全能の神である。あなたは私の前に歩み、全きものであれ」と言われた（創世記 17:1）。この忠実なしもべについて、神は、「アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとし、戒めとさだめと、おきてを、守った」とあかしされた（創世記 26:5）。……

アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、「第二の」または、「新しい」契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。（人類のあけぼの上巻 439, 440）

恵みの契約は新しい真理ではなく、永遠の初めから、神のみむねにあったものである。そのためこれは永遠の契約と呼ばれている。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1891 年 8 月 24 日）

わたしたちがアブラハムの契約の下に来る場合にのみ、わたしたちに希望がある。このアブラハムの契約とは、キリスト・イエスを信じる信仰による恵みの契約である。アブラハに伝えられた福音、すなわち彼が希望を持った福音は、今日わたしたちに伝えられている福音と同じものである。……アブラハムはわたしたちの信仰の創始者であり、またその完成者であられるイエスを見上げたのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]6 巻 1077）

# 人は自分自身を救うことはできない

**「人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、わたしたちもキリスト・イエスを信じたのである。それは、律法の行いによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義とされるためである。なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることはないのである。」（ガラテヤ 2:16）**

もう一つの契約は、聖書で「古い」契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それはそのとき犠牲の血によって批准された。……

神は、彼ら〔イスラエル〕に律法を与え、服従することを条件にして、大きな祝福をお約束になった。「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、……あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう」（出エジプト 19:5, 6）。人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、「わたしたちは主が仰せられことを皆、従順に行います」と宣言した（同 24:7）。彼らは、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、自分たちが破った契約を通して、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。……

「古い契約」の条件は、従って生きよということであった。「人がこれを行うことによって生きるものである」しかし、「この律法の言葉を守り行わない者はのろわれる」（エゼキエル 20:11, レビ 18:5 参照、申命記 27:26）。「新しい契約」は、「さらにまさった約束」によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。（人類のあけぼの上巻 440 ～ 442）

救いの方法はアブラハムの契約に基づいてのみ備えられる。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 9 月 5 日）

# わたしたちの友であり保護者である天使

**「御使たちはすべて仕える霊であって、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するため、使わされたものではないか。」（ヘブル 1:14）**

人類の救いが達成される唯一の計画は、その無限の犠牲に全天を包んだものであった。キリストが、贖いの計画を示されたとき、天使たちは、喜ぶことができなかった。というのは、人間の救いのために、彼らの愛する司令官が言葉に言い表せないほどの苦悩をなめなければならないことを知ったからである。キリストが天の純潔と平和、……を去って地に下り、堕落した人類と接し、悲しみと恥と死を経験しなければならないことを語られたとき、天使たちは悲しみと嘆きをもって彼の言葉に耳を傾けた。……

天使たちは……自分たちが人間ための犠牲になりたいと申し出た。しかし天使の命では、負債を支払うことはできなかった。ただ人間を創造されたかただけが、人間を贖う力をもっておられた。しかし天使たちにも、贖いの計画のなかで果たすべき役割があった。キリストは「御使たちよりも低い者とされ……死の苦しみ」に会われるのであった（ヘブル 2:9）。彼が、人性をおとりになれば彼の力は天使たちの力とは同じでなくなる。それで、彼らはキリストに仕え、苦しみに会われる彼を力づけ慰めるのであった。彼らは、また、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するためにつかわされる仕える霊となるのである。彼らは、恵みにあずかる者たちを、悪天使たちの力とサタンが常に投げかける暗黒から守るものとなるのである。（人類のあけぼの上巻 54 ～ 56）

天使は最も必要としている者、自己とこの上なく困難な戦いをしている者、また最も落胆させる状況にいる者の周りにいつもいるのである。品性の好ましくない特徴をたくさん持っている弱々しい、震えている魂こそ、とくに天使たちに託されたものである。利己的な心が、屈辱的な奉仕とみなすようなことや、あらゆる点においてみじめで、劣った品性の持ち主に対する奉仕が、天の宮廷から来た純粋で罪汚れのない天使たちの仕事なのである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1916 年 5 月 30 日）

すべての天にいる天使たちは、より良い世界の無限の宝を人にもたらす働きにおいて、一致している。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 1 月 21 日）

神とキリストと天使たちはあなたがたと共に戦っておられる。……贖い主のみ力により、あなたがたは勝ち得てあまりある者となることができる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1903 年 1 月 1 日）

# 神の律法は確かである

**「そのみ手のわざは真実かつ公正であり、すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、真実と正直とをもってなされた。」（詩篇 111:7, 8）**

神の律法は人の創造以前に存在していた。そうでなければ、アダムは罪を犯すことができなかったはずである。アダムが罪を犯した後、律法の原則は変わらなかったが、堕落した状態の人間に合うよう明確に整えられ、表現されたのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1104）

天使はそれ〔律法〕によって統治されている。サタンは神の統治の原則を犯したために、堕落した。アダムとエバが創造されて後、神は彼らにご自分の律法をお知らせになった。その律法はそのときに記されたのではなく、エホバによって彼らに繰り返されたのである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1880 年 6 月 10 日）

愛の内に、わたしたちを気高く、高潔にしたいと思われて、神は従順の基準をわたしたちに与えて下さった。恐るべき威厳のうちに、雷といなずまの中で神はシナイ山からご自分の聖なる十の戒めを宣言なさった。この律法は人類家族のすべての義務を表しており、はじめの四条は神に対するわたしたちの義務を明示し、あとの六条は人に対する義務を明示している。（同上 1912 年 1 月 9 日）

神の律法は、神のみこころの啓示であり、神の品性の写しであるから、「天における忠実な証人のように」（英語訳）永遠に続かなければならない。一つとして廃された戒めはない。一点、一画も変更されてはいない。「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり、」「すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、」と詩篇記者は言っている（詩篇 119:89；111:7, 8）。（各時代の大争闘下巻 152）

大争闘は、最初から神の律法に関して戦われたのである。サタンは、神は不正で、神の律法は不完全であるから、宇宙の幸福のためにそれを変更することが必要であることを証明しようとしてきた。彼は、律法を攻撃してその創始者の権威をくつがえそうとしていた。（人類のあけぼの上巻 62）

サタンの誘惑によって全人類は神の律法を犯す者となった。だがみ子の犠牲によって彼らが神に立ち帰る道が開かれた。キリストの恩恵を通して彼らは天父の律法に従うことができるようにされる。（同上 399）

わたしたちが神を全く信頼するとき、すなわち罪を許して下さる救い主としてイエスの功績に頼るとき、わたしたちはわたしたちが望み得る限りの助けを受けられるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 1 月 14 日）

# 戒めに不正な変更を加える

**「彼は、いと高き者に敵して言葉を出し、かつ、いと高き者の聖徒を悩ます。彼はまた時と律法とを変えようと望む。」（ダニエル 7:25）**

サタンは救いの計画を妨げることができなかった。イエスは十字架にかけられ、三日目によみがえられた。彼〔サタン〕は自分の使たちに十字架上の死と復活さえも自分にとって有利にしてみせると言った。イエスを信じる信仰を告白する者たちが、ユダヤ人の犠牲と供え物を規制していた律法がキリストの死によって終わったことを信じるのであれば、サタンは自分が彼らをさらに押し出して、十戒の律法もまたキリストと共に死んだと信じさせられまいかと願っていた。……

彼〔サタン〕は自分の使たちに……十戒は非常に明白なものであるから、多くの者はこの戒めがまだ拘束力を持っていると語った。であるから、生ける神を見させる第四条の戒めを汚すようにしなければならないと言った。サタンは自分の代理人たちに安息日を変更するよう試みさせ、十の戒めのうちで唯一、天地の造り主であられる真の神を見させる戒めを変更するよう導いた。サタンは彼らの前にイエスの栄光に満ちた復活を示して、週の第一日目に復活なさったことにより、このお方が安息日を第七日目から週の第一日目に変更されたと語った。このようにサタンは自分の目的を果たすために復活を利用した。サタンと悪天使たちは彼らが用意した偽りが、キリストの友であると告白する者たちに非常に効を奏したのを見て喜んだ。（霊的賜物 1 巻 109 ～ 111）

サタンは教会の清められていない指導者たちによって第四条を変更し、神が祝福し聖別された安息日（創世記 2:2, 3 参照）を廃そうとした。そしてその代わりに、異教徒が「太陽の神聖な日」として守っていた祭日を高めようとした。（各時代の大争闘上巻 47）

主は神の都への道をはっきりと示しておられる。しかし、大背教者はその道しるべを取り替えて、偽りの道しるべ、すなわち偽の安息日を置いた。……あらゆる善に対する敵が道しるべの向きを逆にしたので、それは不従順の道を幸福の道として指し示している。……彼は時と律法を変えようと思った。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]4 巻 1171, 1172）

# 人間は自由意志を持った道徳的存在

**「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教えが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」（ヨハネ 7:17）**

人間は自由意志を持った道徳的存在として創造された。他の諸世界の住民たちと同じく、人間は、従順か否かの試みを受けなければならない。だが、人間は必然的に悪に負ける立場に置かれているのではない。人間が抵抗できないような誘惑や試練は、一つとして襲ってくることが許されていない。神が十分の備えをしてくださったから、人間はサタンとの戦いにおいて決して敗北する必要はなかったのである。（人類のあけぼの上巻 390）

サタンは罪の大創始者であるが、このことはだれにとっても罪を犯す言い訳とはならない。というのは、サタンは人に悪を行うよう強要することはできないからである。彼は人々がそうするように誘惑し、罪が魅力的で、好ましく見えるようにする。しかし、人々がそうするか、しないかは彼ら自身の意志にまかせなければならないのである。……人は受け入れるか拒むかについては、自由意志を持った道徳的存在である。

改心はほとんどの者がその価値を認めない働きである。世的な罪を愛する思いを変えて、それがキリストの言い尽くせない愛とキリストの恵みの魅力と神のこの上ない卓越さを理解させ、その結果、魂に神の愛を吹き込まれるようになるというのは、小さなことではない。（教会への証 2 巻 294）

あらゆる備えはなされた。人が自分の衝動のままに、また自分自身の限りある力のままにほうっておかれたり、自分の有限な力で暗黒の勢力に対して戦い続けたりすることのないように、すべてが神のご計画のうちに整えられた。なぜなら、人がそのように自分に任されたら、必ず失敗するからである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1120）

神は、あなたがたが無限の価で買い戻されあがなわれた自由な人間として、自分の自由を行使し、神から与えられた能力を天の王国の自由市民として用いるように求めておられる。……悪の力に服従することを拒否しなければならない。（青年への使命 16）

厳粛な、変わることのない目的があなたをとらえるようにしなさい。そして、神の力と恵みのうちに、これからは神と共に生きると決意し、世的な思いによって十戒の聖なる戒めを捨てるようなことはしないと決心しなさい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1894 年 10 月 9 日）

# 天と調和して

**「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。」（詩篇 119:165）**

アダムは、彼の子孫に神の律法を教えた。そして、神の律法は、父から子へと後の世代に伝わっていった。しかし、……それを受け入れ、服従した者は少なかった。この世界は罪のために非常に堕落したために、洪水によって腐敗から潔められなければならなかった。律法は、ノアとノアの家族によって保存された。そして、ノアは、子孫に十戒を教えた。人類が再び神から離れたとき、主は、アブラハムを選び、彼についてこう言われた。「アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った」（創世記26:5）。……

シナイから宣言された律法に関して、ネヘミヤは「あなたはまたシナイ山の上に下り、天から彼らと語り、正しいおきてと、まことの律法および良きさだめと戒めとを授け」と言った（ネヘミヤ 9:13）。……パウロは、「律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである」と言っている（ローマ 7:12）。（人類のあけぼの上巻 430 ～ 433）

全世界は、理性によるか、伝統によるか、あるいは書かれたみ言葉によるか、いずれにせよ律法を知る機会に従って道徳律によって裁かれることになる。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 9 日）

わたしたちは律法のうちに神の慈しみを見る。神はこの不変の義なる原則を人々に示されることによって、不法の結果である悪から、彼らを保護しようとしておられるのである。

律法は神の思想の表現である。わたしたちがこの律法をキリストにあって受け入れるとき、それはわたしたちの思想となる。それは生来の欲望や傾向の力、また罪へと導く誘惑にわたしたちを超越させる。「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません」。不義には平安はない。悪人共は神と戦っている。しかしキリストにあって律法の義を受け入れる者は天と調和している。（原稿 23a, 1896 年）

キリストにあって受け入れると、それ〔神の律法〕は、永遠にわたってわたしたちに喜びをもたらす品性の純潔をわたしたちのうちに実現する。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1110）

# 神のおきてのうちのくすしきこと

**「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」(詩篇 119:18)**

イエス・キリストは律法の栄光であられる。罪人たちが導かれて、いにしえの人と共に「わたしの目を開いて、あなたのおきてのくすしきことを見させてください」と言えるように、義の太陽の輝く光が、キリストの使命者から、罪人の思いに反映されるべきである。多くの者は……神の律法のうちに見られるべきくすしき事柄をみとめることができない。モーセが「どうぞ、あなたの栄光をわたしに示して下さい」(出エジプト 33:18) と祈ったときに彼に表わされたことを彼らは見ていない。モーセに対して表わされたのは、神のご品性であった。(原稿 1891 年 1 月 21 日)

律法の中に記されているすべての具体的な事柄は、無限の神のご品性を表わしている。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1104)

天の律法は常にほかの人たちに対して憐れみ深く、親切で、優しく、助けになり、高めるものである。(手紙 1893 年、42)

踏みにじられた神の律法は、人々の前に高められるべきである。彼らが熱心さと敬神の念をもって聖書に向かうやいなや、天来の光が神の律法のくすしきことを彼らに示して下さる。……偉大な知識人を圧倒していた真理は、キリストにある乳飲み子に理解される。(教会への証 5 巻 388)

十戒の律法は禁止の側からではなく、むしろ恵みの側から見るべきである。十戒に記されている禁止は、従順にある幸福の確かな保証である。……

わたしたちは、神を、罪人をその罪のために罰しようと待っておられる方として考えるべきではない。罪人は、自分で罰を招くのである。罪人自身の行動が、その必然的な結果もたらす一連の状況を生じさせるのである。罪深い一つ一つの行動が、罪人に影響を与え、彼のうちに品性を変える働きをし、もっと罪を犯し易くさせる。罪を犯す方を選ぶことにより、人は神から自らを引き離し、祝福の水路から自分を切り離すので、この必然的な結果は滅びと死である。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1085)

律法に従うことにより知性は強められ、良心は啓発されて敏感になる。若者は神の律法についてはっきりとした理解を得る必要がある。(ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1903 年 9 月 22 日)

# 律法遵守におけるイエスの模範

**「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。」（ヨハネ 15:10）**

神の律法だけが道徳的完全の真の標準である。その律法がキリストのご生涯のうちに実際的に具現化された。このお方はご自身について、「わたしがわたしの父のいましめを守った」といわれる。（清められた生涯 80）

律法は神の思想のあらわれである。キリストのうちにあって受け入れられるとき、それはわれわれの思想となる。……神はわれわれが幸福になることを望んでおられる。そこで神は、律法のいましめをお与えになったが、それは、われわれがこれに従うことによって、喜びを感ずるようになるためである。イエスの誕生にあたって天使たちが、

「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」（ルカ 2:14）

と歌ったとき、彼らは、イエスが拡大しそしてとうといものとするためにおいでになった律法の原則を宣言していたのであった。……

「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである」とイエスは言われた（マタイ 5:18）。天に輝く太陽、あなたの住んでいる大地は、神の律法が永遠不変のものであるという神の証人である。それらが過ぎ去ることがあっても、神のいましめは続くのである。「しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方が、もっとたやすい」（ルカ 16:17）。

「主のおきては完全」であるから、律法にはずれたことはすべて悪でなければならない。神の戒めに従わず、人々にもそうするように教える者は、キリストから罪を宣告される。救い主は律法に服従した一生によって、律法の要求を支持された。それは人性のうちにあっても律法を守ることができることを証明し、律法に従うことによって養われる品性のすばらしさを示した。キリストのように律法に従う者はみな同じように、律法が「聖であって、正しく、かつ善なるものである」ことを宣言しているのである（ローマ 7:12）。（各時代の希望中巻 13 ～ 15）

キリストを信じる信仰を通して、人が全力を尽くして、十戒に従うことによって主の道を守ろうとするとき、悔い改めた、従順な魂の罪を覆うためにキリストの完全が着せられる。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 135）

# 律法の大原則

**「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」（ヨハネ 14:15）**

律法は、……ヘブル人だけのために語られたのではなかった。神は彼らに栄誉を与えて、ご自分の律法の守護者また遵守者とされたが、それは全世界のための聖なる委託として保持すべきものであった。十誡は、全人類に適用されるのであって、すべての人の教えと統治のために与えられたのである。十誡は、短くて、包括的で、権威があって、神と人とに対する人間の義務を網羅し、その全部は愛という根本的な大原則に基づいている。「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』」（ルカ 10:27）。（人類のあけぼの上巻 355）

神の律法は新しいものではない。それは創造された聖潔ではなく、知らされた聖潔である。これは恵みと善と愛を表現している法典である。この律法は堕落した人類に神のご品性を示しており、人の義務全体をはっきりと述べている。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1104, 1105）

神は聖なる律法の教えの中で、完全な生活の規則を与えておられる。そして神は、この律法は世の終わりまで、一点一画も変えられることなく人間に要求されるものであると宣言された。キリストは律法を大いなるものとし、かつ栄光あるものとするために来られた。……キリストはご自身の生活において、神の律法に従う模範をお与えになった。山上の垂訓の中で主は、神の律法の要求が、いかに外面的な行為を越えて広く及ぶものであり、心の中の思いや意図を含むものであるかをお示しになった。（患難から栄光へ下巻 201, 202）

今日神は人々が隣人を愛しているかどうかを示す機会を彼らに与えておられる。本当に神と隣人を愛する人とは、困っている人、苦しんでいる人、傷ついた人、また今にも死のうとしている人に情けを示す人である。神はすべての人に、今までおろそかにしていた仕事に着手し、人類の中に創造主の道徳的なみかたちを回復するために努力するよう命じておられる。（福祉伝道 49）

「せよ」「してはならない」という十戒は、十の約束であって、わたしたちが宇宙を統治している律法に従うならば保証されている。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」（ヨハネ 14:15）。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1105）

# 罪におけるわたしたちの救いようのない状態

**「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる。」（エレミヤ29:13, 14）**

わたしたちは罪によって神の生命から切り離されている。わたしたちの魂は麻痺している。……罪の自覚は生命の泉を毒してしまった。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 56, 57）

わたしたちは、生まれながら神に遠ざかっている。聖霊はわたしたちの状態を次のように言っている。「自分の罪過と罪とによって死んでいた者」（エペソ 2:1）。「その頭はことごとく病み、その心は全く弱りはてている。」「完全なところがなく」（イザヤ 1:5, 6）と。わたしたちは全く「悪魔に捕らえられて」（テモテ第二 2:26）かれの思いのままに、しっかりとりこにされているのである。神はわたしたちをいやし、解放しようと望んでおられる。しかしこれには全き改革、すなわちわたしたちの性質をまったく新しくしなければならないから、わたしたちはおのれを全く神にささげなければならない。

自己との戦いは最も大きな戦いである。自己に打ち勝ち、神の御心に全く従うには戦いを通らねばならない。しかし神に明け渡さなければ、魂が聖化されることはできないのである。（キリストへの道 53, 54）

多くの人は自分の無力を悟り、神と調和することができるような霊的生活を切望し、これを得ようとして努力している。しかしできないのである。……失望しながらもがいている人々は上を見あげなさい。……

罪があなたの魂と争って勝とうとす……るとき、救い主を見あげなさい。神の恵みの力は罪を征服するのに十分である。不安におののきながら、感謝している心を救い主に向けなさい。あなたの前におかれた望みをつかみなさい。……彼の力はあなたの弱きを助け、彼は一歩一歩あなたを導いてくださる。あなたの手を彼の手のうちに置いて導いていただきなさい。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 56, 57）

弱点や不運、また罪という鎖でしばられている虜を、自由にしてくださるのである。……

彼はいつもそば近くにおられる。彼のやさしいご臨在は、あなたを取り囲んでいる。キリストはあなたが彼を見出すように望んでおられるということを覚えて、彼を求めなさい。（同上）

神は、「もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会う」（エレミヤ 29:13, 14）と約束なさった。（キリストへの道 53）

# 旧約、新約両時代のための福音

**「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。」（ヤコブ 1:17）**

アダムの堕落以来、罪を犯すことがこの世の流行となっているので、何が罪であるかを知ることはわたしたちの益である。ヨハネは「すべて罪を犯す者は不法を行う者である。罪は不法である」（ヨハネ第一 3:4）と言っている。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 10 月 20 日）

神のみ旨は、……罪……から救うことである。汚れてゆがんだ魂も変えられて清くなる。（祝福の山 75）

サタンに捕らわれ堕落していた魂は、福音を通して贖われ、神の子らの輝かしい自由にあずかるはずである。（同上 75）

福音は神の力と知恵である。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 262）

キリストはそのご品性に神を表わすために地上につかわされた。……キリストご自身が福音であった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 7 月 17 日）

わたしたちは福音を信じて、福音を説いていると主張する多くの人々が、……キリストが「この聖書は、わたしについてあかしをするものである」といわれた旧約聖書を無視している（ヨハネ 5:39）。旧約を拒むことは、事実上、新約を拒むことである。この二つは切り離すことのできない統一体である。だれでも福音を説かないで、神の律法を正しく語ることはできない。また、律法を離れた福音を説くこともできない。律法は、福音の具体的表現であって、福音は律法の解説である。律法は根であって、福音は、律法のかんばしい花であり、その結ぶ実である。（キリストの実物教訓 106）

シナイから律法を宣言されたかた、そして、モーセに礼典律の戒めをお与えになったかたは、山の上で説教されたかたと同じである。……両時代を通じて、教師は同じである。神の要求されるところは同じである。神の統治の原則は同じである。なぜなら、「変化とか回転の影とかいうものはない」おかたから、すべてのものがでているからである（ヤコブ 1:17）。（人類のあけぼの上巻 444）

新約聖書の福音は、罪人に合わせて罪のうちに救うために旧約聖書の標準を低めたものではない。神はご自分の臣民すべてに従順、すなわちご自分の戒めすべてに対する完全な従順をお求めになる。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1072）

# 従順のためのあふれるほどの恵み

**「なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。」（ローマ 6:14）**

キリストの死は、律法を恵みに変えたというのは、サタンの詭弁である。イエスの死は十戒の律法を変更せず、無効にもせず、また、ほんのわずかといえども軽減することもなかった。救い主の血を通して人に差し出されたこの尊い恵みは、神の律法を確立する。人が堕落して以来、神の道徳上の統治と恵みは分けることのできないものとなっている。この二つはすべての時代を通じて手を取り合って歩んでいる。「いつくしみとまこととは共に会い、義と平和とは互いに口づけし」（詩篇 85:10）。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1881 年 3 月 8 日）

神の律法はそれぞれ慈しみと愛、そして救いの力の法令である。これらの律法は、これに従うなら、わたしたちの命となり、救いとなり、また幸福と、平和となる。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]3 巻 1153）

このお方のおきてと律法への従順が、神の民の命であり、繁栄である。（同上 1 巻 1120）

福音の希望の感化力は、罪人が神の律法を犯して生活しながら、キリストの救いを無償の恵みとしてながめるように導くことはない。……罪人は自分のやり方を改革し、救い主からいただいた力を通して、神に忠実な者となり、新しくより清い生活を送る。（教会への証 4 巻 294, 295）

わたしたちのために払われた犠牲が完全であったように、罪の汚れからのわたしたちの回復も完全であるべきである。神の律法はいかなる悪い行動も許さず、その断罪を免れうる不正は一つもない。福音の倫理は、神聖な品性の完全以外の標準を認めない。キリストの生涯は、律法のすべてのいましめの完全な成就であった。彼は「わたしがわたしの父のいましめを守った」と言われた（ヨハネ 15:10）。その生涯は服従と奉仕の模範である。神だけが人の心を新しくすることができる。「あなたがたのうちに働きかけて、そのねがいを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（ピリピ 2:13）。しかしわたしたちは、「自分の救いの達成に努めなさい」と命じられている。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 433, 434）

従順な神の子に対しては戒めは喜びである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]3 巻 1152）

# 働く信仰

**「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」（ヘブル 11:6）**

信仰とは、知識の確かさではなく、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1876 年 3 月 3 日）

信仰とは神に信頼すること、すなわち神がわれわれを愛し、われわれの幸福にとって最善であるものをご存知であることを信じることである。そのときわれわれは自分自身の道を選ばず、神の道を選ぶようになる。信仰によってわれわれは、無知の代わりに神の知恵を受け入れ、弱さの代わりに神の力を、罪の代わりに神の義を受け入れる。われわれの生命、われわれ自身がすでに神のものである。信仰は神の所有権をみとめ、その祝福を受け入れる。真実と誠実と純潔は人生の成功の秘訣としてさし示されている。これらの原則をわれわれに所有させるのが信仰である。善への衝動や抱負はすべて神の賜物である。信仰によって神から与えられる生命だけが真の成長と実力を生ずることができる。（福音宣伝者 259）

わたしたちが信仰について語るとき、信仰には区別があることを心にとめておくべきである。つまり、本当の信仰とは全く違った一種の信仰があるということである。神の存在とその力、み言葉の真理であることは、悪魔もその軍勢も心のうちでは否むことのできない事実である。聖書には「悪霊どもでさえ、信じておののいている」（ヤコブ 2:19）とあるが、これは信仰ではない。神のみ言葉を信ずるというばかりでなく、神に意志を服従させ、心をささげ愛情を注いでこそ、信仰があるといえるのであって、そうした信仰は、愛によって働き、魂をきよめるのである。この信仰によって、心は神のみかたちに造りかえられる。新たにされない心は、神のおきてに従いもしなければ、実際、従うこともできないのであるが、信仰によって新たにされた今は、きよいいましめを喜び、詩篇記者とともに「いかにわたしはあなたのおきてを愛することでしょう。わたしはひねもすこれを深く思います」（詩篇 119:97）と言うことができる。そして律法の義が「肉によらず霊によって歩く」（ローマ 8:4）わたしたちのうちに全うされるのである。（キリストへの道 83, 84）

信仰がわたしたちに何かを得させるのではない。信仰は、神の賜物であって、わたしたちがキリストを自分の個人的な救い主とすることによって受け、心に持ち続けることのできるものである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]6 巻 1080）

# どのように信仰は完全なものとなるか

**「信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。」（ヤコブ 2:17）**

罪の追放は魂自身の働きである。大いなる必要を感じて、魂は自分以外の自分を超えた力を叫び求める。そして聖霊の働きを通して、もっと高潔な精神が、罪の束縛を断つ力を添えて注がれる。

人がキリストに屈服するとき、思いは律法の支配下に入る。しかし、これは王家の律法であって、すべての捕らわれ人に自由を宣言するものである。キリストと一つになることによってのみ、人は自由になることができるのである。キリストの意志に従属するということは、完全な人格を回復するということである。罪は魂の自由を破壊すること……によってのみ勝利を得ることができる。

あなたは自分の罪深さに気づいているであろうか。あなたは罪を嫌悪しているであろうか。それならば、あなたがキリストの義をつかむなら、その義はあなたのものだということを覚えていなさい。あなたがキリストを受け入れるとき、あなたの足元にどれほどしっかりした土台が据えられることか理解できないだろうか。神は御子の犠牲を世の罪に対する完全な贖罪としてお受け入れになったのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1900 年 9 月 20 日）

キリストに全的により頼む真の信仰は、神のすべての要求に従うことによってあらわれる。……神のいましめのどれかを無視していながら、神の恵みにあずかる権利を主張した人々が各時代にあった。しかし、聖書は、行いによって「信仰が全う」されることと、服従の行為がなければ、信仰は「死んだ」ものであることを明らかにしている（ヤコブ 2:22, 17）（人類のあけぼの上巻 69）

サタンは信じておののいている。彼は働いている。彼は自分の時が短いことを知っており、自分の信仰に従って悪い働きをするために恐るべき力を携えて下ってきた。しかし、神の民だと公言する者は、自分の行いで自分たちの信仰を支持しない。彼らは時の短いことを信じている。しかし、あたかもこの世界が今あるように、これから千年もそのままであるかのように、この世の財産を熱心につかんでいる。（教会への証 2 巻 61）

あなたは万物の終わりが間近であって、この地上の歴史の場面が速やかに閉じようとしていることを信じるだろうか。もしそうなら、あなたの信仰をあなたの行いによって示しなさい。人は自分が持っている信仰をすべて示すであろう。（同上 1 巻 704）

# わたしたちは自分の告白を否定するのか

**「律法を誇としながら、自らは律法に違反して、神を侮っているのか。聖書に書いてあるとおり、『神の御名は、あなたがたのゆえに、異邦人の間で汚されている』。」（ローマ 2:23,24）**

教会の信徒となりながらも、主に結びついていない者は皆、やがては自分の真の性質を発達させる。「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう」（マタイ 7:16）。信心や節制、忍耐、親切、愛、そして博愛といった尊い実は彼らの生活に現れない。彼らはただいばらやとげをもたらすだけである。神はすべてこのような公言者によって世の前に辱められている。……サタンは、彼らが心や生活において変わらないかぎり、自分の最高の働き人であることを知っている。そして彼らの行いがあまりにもその告白と正反対であるため、彼らは不信仰な者にとってはつまずきの石であり、信者にとっては大変な試練となる。……

神の戒めを守っていると公言しながら、自分の生活がその公言を否定している人々は、尊い実を結んでいないことに対して、最後の決算の日になんという決算報告をしなければならないことであろう。（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ原稿 1, 1878）

何か大きな不法からは恐れてしりごみする多くの者が、小事における罪をささいな事柄として見るよう導かれる。しかし、これらの小さな罪は魂の中で信心の命を食い尽くす。正しい道からそれた細道に入り込む足は、その終わりが死に到る広い道へと向かう傾向がある。一度、退歩する動きが始まると、だれもそれがどこへ行きつくのか分からない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1887 年 11 月 8 日）

キリストの真の弟子は、型であられるお方を真似しようとする。彼の愛は完全な従順へと導く。神の御心が天で行われるように、地上で行うために研究する。心がまだ罪で汚れている者は、善なる働きに熱心になれない。また、注意深く悪を避けることをせず……制しにくい舌に用心しない。彼は注意深く自制することなく、またキリストの十字架を高く掲げない。……

心を支配し、生活を制する御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、善意、心からの憐れみ、そして思いの謙遜である。真の信者は御霊のあとにあゆみ、神の御霊が彼らのうちにやどるのである。（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ原稿 1, 1878）

# 信仰は従順を無効にするか

**「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。」（ローマ 3:31）**

信仰は鎮静剤ではなく、刺激剤である。カルバリーを見上げることによって、あなたの魂を義務の不履行へと静めるのではなく、かえってすべての利己心から魂を清めて働く信仰を創造するのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1893 年 1 月 24 日）

魂を救って下さるキリストを信じる信仰は、多くの人が示しているようなものではない。「信じなさい。信じなさい。ただキリストを信じなさい。そうすればあなたは救われる。あなたがしなければならないことはそれだけである」と彼らは叫ぶ。しかし、真の信仰は救いのためにキリストを全面的に信頼する一方、神の律法への完全な一致へと導くのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1073）

ここに神の子ら―とくに神の恵みに頼り始めたばかりの者―が警戒する必要のある二つの過ちがある。まずひとつめが……自分の行為を見て、自らを神との調和に入れるために自分でなし得ることをなんでも頼みとすることである。……律法を守る自分自身の行いによって聖なる者になろうとする者は不可能なことを試みているのである。……わたしたちを聖なる者とすることができるのは、信仰を通してのキリストの恵みのみである。

それとは反対であるが、同じように危険なことは、キリストを信じれば人は神のおきてを守らなくても良いという考えである。すなわち、ただ信仰によってキリストの恵みにあずかるようになったのであるから、行いはわたしたちの救いと全然関係がないということである。

しかし服従ということは、単なる外面だけの服従ではなく、むしろ愛の奉仕をさすのである。神の律法は神の品性そのものを表現したものであり、愛の原則を具体化したものであるから、天にあっても地にあっても神の政府の基礎である。……人は服従しなくても良いというのではない。信仰―ただ信仰のみがわたしたちをキリストの恵みにあずからせ、服従することができるようにするのである。（キリストへの道 77 ～ 79）

神のしもべが人性をとられたイエスのようになることを神は求めておられる。救い主の力によって、わたしたちは救い主が送られたような純潔で、立派な生活を送らなければならない。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 401）

# 救いの力の大いなる要素

**「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それはだれも誇ることがないためなのである。」（エペソ 2:8, 9）**

恵みとは受ける価値がない人間に向かって働く神の特性の一つである。わたしたちがそれを求めたのではなく、わたしたちをさがすためにそれが送られたのである。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 135）

神の恵みは救いの力の大いなる要素であり、この恵みなしには人間の努力はむなしい。（両親、教師そして生徒への勧告 538）

あなたはキリストの内にいるだろうか。もしあなたが罪を犯す者であり、自分ではどうすることもできない者であり、有罪を宣告された罪人であることを認めないなら、あなたはキリストの内にいない。また、もしあなたが自己を高め、栄光を帰しているなら、あなたはキリストの内にいない。もしあなたの内にいくらかでも善いところがあるとすれば、それはまったくあわれみ深い救い主の憐れみによるのである。あなたの生まれや評判、富や才能、徳や敬虔、また慈善行為や、あなたの心の内にあるものもあなたとつながりのあるものも何であれ、あなたの魂とキリストを一致させるきずなとはならない。教会とのつながりや、あなたに対する信仰の兄弟姉妹の見解も、あなたがキリストを信じないかぎり、何の役にも立たない。キリストについて信じるのでは十分ではない。あなたはキリストを信じなければならい。あなたはキリストの救いの恵みに完全により頼まなければならない。（教会への証 5 巻 48, 49）

恵みと力の豊かな供給があなたの要求を待っているということを、あなたが理解すればよいのだが。（同上 17）

神は、み子という比類なき賜物を与えて、ちょうど空気が地球の回りを取りまいているように、恵みの雰囲気で全世界を包まれた。このいのちを与える空気を吸いたいと望む者は、だれでも生きることができ、キリスト・イエスにある全き人となることができるのである。（キリストへの道 90, 91）

キリストは……わたしたちのために死なれた。キリストはわたしたちが当然受けるべき待遇どおりにわたしたちを取り扱われない。わたしたちの罪はとがめられるのがあたりまえであるが、キリストはそうなさらない。長い間わたしたちの弱さ、無知、忘恩、わがままを忍耐された。道に迷っ…たにもかかわらず、なおそのみ手は差し伸べられている。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 135）

神の要求なさることは、キリストの恵みによってことごとくなしとげることができる。（キリストの実物教訓 280）

# より大きな経験のための祈り

**「あなたがわたしの心を広くされるとき、わたしはあなたの戒めの道を走ります。」(詩篇 119:32)**

シナイ山でキリストによって語られた聖なる十の戒めは、……キリストが全人類の既得権に対する支配権を持っておられる事実を世界に知らせた。人間に示すことのできる最大の愛である十の戒めの律法は「これを行えば、あなたはサタンに統治と支配下に陥ることはない」とのみ約束を魂に語りかけて下さる天からの神のみ声である。この律法の中には一見そのように見えても否定的なものはない。それは、行え、そして生きよ、である。(ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ ]1 巻 1105)

天の神は、神の戒めを守る者に祝福を授けておられる。わたしたちは神の特別な民として立つのだろうか。それとも神の律法を踏みつけて、律法に拘束力はないと言うのだろうか。そうであれば、神ご自身がそれを廃されることであろう。(同上 1104)

神の律法とは神がすべての人を招いて、「もっと高く上がってきなさい。もっともっと、きよくなりなさい」と言われるみ声の反響である。このゆえにわたしたちは日々、クリスチャン品性の完成に進むことができるのである。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 490)

ちょうど天空の星が、天には大いなる光があって、その栄光によって自分たちは輝いているのだということを、われわれに告げているように、キリスト者は、自分たちを賛美し、倣うべき品性をお持ちの神が、宇宙の王座におられるということを、あらわさなければならない。(各時代の大争闘下巻 205, 206)

愛する青年方よ、天の光はあなたがたの歩む道に輝いている。どうかあなたがたの機会を最もよく利用しなさい。天から送られる光の一すじ一すじを受け入れて大事にしなさい。そのときあなたがたの道は「いよいよ輝きを増して真昼となる」のである (箴言 4:18)。(青年への使命 18)

わたしたしたちは光の中を歩むことによって力強さを……得、神の戒めを守る道を走り抜くエネルギーを持つことができる。わたしたちは天へ向かって前進する一歩一歩に力を増し加えることができる。(教会への証 3 巻 436)

わたしたちはたえずキリストの新たな啓示と、その教えに一致した日常の経験とを必要とする。高尚な、神聖な域に到達することは可能であって、絶えず知識と美徳が向上していくことは、わたしたちに対する神のみむねである。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 490)

# イエスの救う力

**「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。」（コリント第二 12:9）**

わたしたちの尊い救い主はわたしたちがご自分につながり、わたしたちの弱さをご自身の強さと結びつけ、わたしたちの無知をご自身の知恵に、またわたしたちの無価値をご自身の功績と一つとするように招いておられる。（教会への証 4 巻 16）

律法に従うことに厳密であることが、天の王国に入る資格を人に与えるのではない。

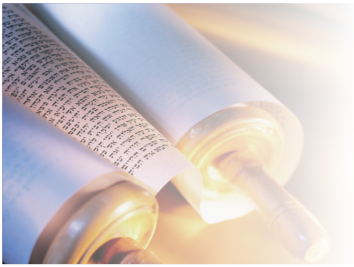
生活を清め、品性を高尚にする神の御霊の活動を通して、新しい誕生、また新しい心がなければならない。神とのこのつながりは、人を栄光に満ちた天の王国にふさわしい者とする。人間の発明は、罪人のための救済策を見出すことは決してできない。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1877 年 1 月 11 日）

内から働く力、すなわち天よりの新しい生命がなければ、人は罪から聖潔に変えられることができない。この力というのはキリストである。キリストの恵みのみが命のない魂に機能を生きかえらせて、これを神ときよきに導くことができるのである。……人は生まれながら持っている良いところを伸ばせばよいという考えは恐ろしい誤りである。聖書には、「生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼は理解することができない」（コリント第一 2:14）。キリストについては、「この言に命があった。この命は人の光であった」（ヨハネ 1:4）。「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」（使徒行伝 4:12）としるされている。……

使徒パウロは……純潔と正義とを求めてやまなかったが、彼自身にはそこまで達する力はなかった。そしてついに、「わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、このからだから、わたしを救ってくれるだろうか」（ローマ 7:24）と叫んだのである。こうした叫びは、どこにおいても、どんな時代にも、罪の重荷に悩む人々の心から等しくほとばしり出たものである。こうした人への答えは「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ 1:29）というみ言葉よりほかにない。（キリストへの道 15 ～ 18）

研究 11

最後の出来事



# 聖霊の降下「前と後の雨」

The outpouring of Holy Spirit

Early and Latter Rain

今回は地上にある神の民に天から与えられる「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることを求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨（前の雨）のように、わたしたちに臨み、春の雨（後の雨）のように地を潤される」という聖霊の降下の約束について学びたいと思います（ホセア 6:3）。

「なぜ、わたしたちは聖霊の賜物を飢え渇くように求めないのであろうか。これこそわたしたちが力を受ける方法なのである。なぜ、それについて語り、それについて祈り、それに関して説教しないのだろうか」（教会への証 8 巻 22）。

「ああ！私たちは民として神のみ前に自分の身を低くし、聖霊を下さるように神に嘆願しよう」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 11 月 22 日& 29 日）。

今日、「わたしは後の雨を受けさえすれば、様々なことができるようになる」という声を聞きます。しかし、私たちが必ず理解すべきことが次の証に書かれています。

「われわれが聖霊を用いることはできない。御霊がわれわれを用いてくださるのである。御霊を通して、神は民のうちに働き、『その願いを起こさせ、かつ実現に至らせ』てくださるのである（ピリピ 2:13）。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。御霊は、へりくだった心で神に仕え、その導きと恵みを待ち望む者にだけ与えられる」（各時代の希望下巻 158）。

このように、聖霊を受ける唯一の条件は神のみ前に謙遜であること、というのがわかります。

## 1．聖霊の必要性

どれほど価値のある良いものであっても、それが理解できない者には無意味

であることが次の言葉でわかります。

「十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救いにあずかるわたしたちには、神の力である」（コリント第一 1:18）。

これと同様に聖霊の力と働きを理解していない者にとって、聖霊の降下は無意味であることが理解できます。であれば、聖霊の降下が私たちに必要である理由は何であるかを研究してみましょう。

「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである」（ヨハネ 16:13, 14）。

私たちは上記のみ言葉を通して二つの重要なことを理解することができます。

1）私たちをあらゆる真理に導き、

2）キリストに栄光を得させる。

最後の大いなる叫びにあずかる神の使者として、また神の栄光を全地に輝かすべき神の民として、この目的を成就するのは、ただ聖霊の力によってのみ可能であるということを真に理解しなければなりません。

「聖霊と神の力がなければ私たちが真理を伝えるために働くことは無駄になるであろう」（教会への証 5 巻 158）。

「今、私たちが住んでいるこの時代は求める者にとっては、聖霊の時代である。聖霊の祝福を求めよう。…私たちはこの時代のための特別な真理を宣布するように召されたのである。すべての者にとって、この聖霊の降下は不可欠である。私たちはそのために祈るべきである。主は私たちがご自分に求めるように望んでおられる。私たちはこの働きに全心を込めてこなかったのである」（牧師への証 511）。

「御霊の約束は、ちょうど初期の弟子たちのものであったように、今日わたしたちのものである。神は、ペンテコステの日に、救いの言葉を聞いた人々に上よりの力を授けられたのと同じように、今日の男女にも授けてくださる。このときこそ、聖霊とその恵みを必要とし、このかたをその言葉どおりに信じるすべての者たちのものなのである。聖霊が注がれたのは、弟子たちが、もはや最高の地位を求めて争わなくなって、完全に一致結合してからであったことに注意しなさい。彼らは一つになった。すべての相違は取り去られた。」（教会への証 8 巻 20）。

## 2．後の雨が降るなら…

「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘

は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ」（ヨエル書 2:28, 29）。

「人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め」（使徒行伝 4:13）。

「後の雨が降り注がれるとき、人間の発明や人間の機構は、一掃されてしまうであろう。人間の権威の壁はあたかも折れた葦のようになり、聖霊は生きた人間の器を通して説得力をもってお語りになる。そのとき、だれも文章がうまくできているか、あるいは文法的に間違いがないかを気をつける者はない。神ご自身のチャンネルを通して生ける水が流れ出るのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 58, 59）。

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会（名目的再臨信徒と堕落した教会〔初代文集 424 ～ 425 参考〕）から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる」（各時代の大争闘下巻 190）。

「神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこと奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行われ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う」（各時代の大争闘下巻 383）。

### 3. 後の雨の時

「あなたがたは春の雨の時（後の雨の時）に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる」（ゼカリヤ 10:1）。

「後の雨は、季節の終り近くに降って、穀物を実らせ、それを刈り入れに備えさせる」（牧師への証 506）。

「利己心が死に、首位を争う心が消え、心に感謝が満ち、愛が生活をかぐわしいものとするそのときこそ、キリストが魂のうちに宿り、わたしたちは、神と共に働く者として認められるのである」（キリストの実物教訓 381）。

「働きが閉じられ、神の民の印する働きが終わる前に、わたしたちは聖霊の降下を受ける。天よりの御使いが、私たちのただ中に立つのである。今は私たちが

すべての神の戒めに完全に服従して、天にふさわしくされるべき時である」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻111）。

今日、私たちの準備が出来次第、天から最も大きな賜物として後の雨を受けることができるということを覚えなければなりません。

## 4. なぜ後の雨が降らないのか？

ある人々は、後の雨が降らない理由は、米国で国家的な日曜休業令が発布されていないからであるといいます。しかし、これは欺瞞です！では、真の理由は何でしょうか？その理由を考えてみたことがありますか。その理由は次の通りです。

「ところが、この民には強情な、そむく心があり、彼らはわき道にそれて、去ってしまった。彼らは『われわれに雨を与え、秋の雨と春の雨を時にしたがって降らせ、われわれのために刈入れの時を定められたわれわれの神、主を恐れよう』とその心のうちに言わないのだ。あなたがたのとがは、これらの事をしりぞけ、あなたがたの罪は、良い物があなたがたに来るのをさまたげた」（エレミヤ 5:23 ～ 25）。

「人の子よ、これに言え、あなたは怒りの日に清められず、また雨の降らない地である。…その祭司たちはわが律法を犯し、聖なる物を汚した。彼らは聖なる物と汚れた物とを区別せず、清くない物と清い物との違いを教えず、わが安息日を無視し、こうしてわたしは彼らの間に汚されている」（エゼキエル 22:24, 26）。

## 5. 後の雨を受けさせる前の雨

前の雨とは何でしょうか？「東方の国では、前の雨は種まき時に降る。それは種が発芽するのに必要な雨である。土地を肥沃にするこの雨の力によって、やわらかな芽が出てくる」（牧師への証 506）。

「多くの者の大部分は、前の雨を受け損じている。彼らは神がこうして彼らのために準備された恩恵のすべてを得ていない。…人間をイエス・キリストにあって完全へいたらしめる働きを開始されたのは神であり、それを完了されるのも神である。しかし前の雨によって象徴されている恵みを軽視してはならない。…私たちの経験の中でどの点においても、はじめに出発させてくださった助けを必要としないときはないのである。前の雨の下で与えられた祝福はわたしたちにとって最後まで必要なものである。しかし、それだけでは十分ではない。…天来の恵みは最初に必要であり、それは一歩一歩前進するごとに必要であり、また天来の恵みだけがこの働きを完成することができるのである」（牧師への証 507 ～ 508）。

前の雨の役割について、私たちにとっての大きな祝福、また約束となる次の証を読んでみましょう。

「キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた」(各時代の希望中巻 20)。

「心が清くされるのは御霊によってである。御霊によって、信者は神の性質にあずかる者となる。すべての先天的後天的な悪の傾向に打ち勝つ天来の力として、またご自身の品性を教会に印象づける天来の力として、キリストは御霊をお与えになった」(各時代の希望下巻 157)。

## 6. 後の雨はだれに与えられるのか?

「もし、きょう、あなたがたに命じるわたしの命令によく聞き従って、あなたがたの神、主を愛し、心をつくし、精神をつくして仕えるならば、主はあなたがたの地に雨を、秋の雨、春の雨ともに(前の雨、後の雨ともに)、時にしたがって降らせ、…」(申命記 11:13, 14)。

「彼らは雨を待つように、わたしを待ち望み、春の雨(後の雨)を仰ぐように口を開いて仰いだ」(ヨブ記 29:23)。

「あなたがたは自分のために正義をまき、いつくしみの実を刈り取り、あなたがたの新田を耕せ。今は主を求むべき時である。主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる」(ホセア 10:12)。

上記のみ言葉を通してわかるように、恵みの御霊である後の雨は、①神の命令に聞き従って、②わたしたちの神、主を愛し、③心をつくし、精神をつくして主に仕え、④口を開いて後の雨を仰ぎ、⑤新田を耕し、正義をまいて、いつくしみの実を刈り取る人々「教会」に注がれるということがわかります。このような人々(教会)を通して神はご自分のみわざを完成されるのです。

「聖霊は働きをするのに用いることができる通路を待っておられる。…神の霊は器に聖霊を受ける用意ができ次第、教会に注がれるのである」(彼を知るために 330)。

「教会に注がれる聖霊の降下が将来にあるものと期待しているが、今それを受けることが教会の特権なのである。聖霊の降下を求め、そのために祈り、そのために信じなさい。私たちは必ず聖霊を受けねばならない。そして天は聖霊を授けようと待ちかねている」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 3 月 19 日)。

「わたしたちが主の働きに全心をつくして献身するとき、神は聖霊を限りなくお

与えになることによってその事実を認めてくださる」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 7 月 21 日）。

## 7. 聖霊が与えられるとは何か？

聖霊が与えられるとはどんなことかという質問が、往々にして聞かれます。皆様はこれに対してどうお答えになるでしょうか。

「天よ、上より水を注げ、雲は義を降らせよ。地は開けて救いを生じ、また義をも、生えさせよ。主なるわたしはこれを創造した」（イザヤ 45:8）。

「ペンテコステの当日、聖霊が注がれたその結果はどうであったろうか。復活された救い主についての喜ばしい知らせは、人の住むところにはどこにでも伝えられた。弟子たちがあがないの恵みについての使命を伝えると、人々の心はこの使命の力に従った。教会は四方から集まってくる改心者を見守った。信仰を棄てた人々ももう一度悔い改めた。罪人たちは、高価な真珠を求めて信者たちに加わった。福音に最も激しく反対していた人々もその擁護者になった。『彼らの中の弱い者も…ダビデのようになる。またダビデの家は…主の使のようになる』という預言が成就した（ゼカリヤ 12:8）。どのクリスチャンもみな、お互いのうちに神の愛と慈善心があらわれているのを見た。ただ一つの関心が支配し、一つの対象を求める熱意が他のすべてをのみこんだ。信徒の望みはキリストのご品性に似たものとなることであり、神の国を発展させるために働くことであった。」（患難から栄光へ上巻 44）。

「聖霊は、魂の中の霊的生命の呼吸である。御霊を与えることはキリストの命を与えることである。それは受ける者にキリストの属性を吹き込む」（各時代の希望下巻 342, 343）。

聖霊を注がれることとは、すなわち「キリストの命を与えること」だという事実がこの証によって明らかにされています。このようにキリストの命を受けるとき、彼らを通して次のような事実が証明されるでしょう。

「彼らは、飢え渇くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った」（初代文集 440）。

## 8. 後の雨の役割

「ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」(使徒行伝 1:8)。

「聖霊に欠けている者は、シオンの城壁の上で忠実な見張り人とはなり得ない。なぜならば、彼らは自分たちのなすべき仕事について盲目であり、しっかりしたラッパの音を出さないからである。ペンテコステの日にあったような聖霊のバプテスマによって、真の宗教のリバイバルがおこり、多くの驚くべきわざがなされるであろう。天の御使いたちはわれわれの所を訪れ、人々は神の聖霊に動かされるままに語るのである」(ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 57)。

私たちはこの証を通して、後の雨の役割について理解することができます。①「力を受けて…キリストの証人となる」②「しっかりしたラッパの音を出す」③「真の信仰のリバイバル」を起こし④「多くの驚くべきわざを行う」⑤「聖霊に動かされて」、という言葉の意味を理解しなければなりません。ここに示されていることから、聖霊の降下がなければ、人間がいくら努力しても成し得ないことであるということが理解できます。

「神に導かれ、指導を受けるために、このかたの支配下に自分の身を置く人々は、神のご計画によって定められた事件が起こる時、はっきりとそれをたどることができる。彼らはこの世の命のためにご自分の命をお与えになったかたの霊を受けたので、もはや自分たちができないことを指さして、無力のまま立ちつくしたりはしない。彼らは天の武具を身にまとって戦いに出て行き、全能の神が彼らの必要を満たして下さることを知っているので、神のためには喜んで何でもするのである」(教会への証 7 巻 14)

ですから、後の雨の役割は、

(1) 穀物を実らせて、それを刈入れに備えさせる (牧師への証 506)。

(2) 使命を宣布し、キリストの証人となるようにする (使徒行伝 1:8、ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 57)。

(3) 大患難を通過するために準備させる (教会への証 1 巻 353, ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E. G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ]7 巻 984、初代文集 85, 86)

ことなのです。

## 9. 後の雨のための準備

「だから、主のみ前から慰めの時がきたときに、自分の罪をぬぐい去っていた

だくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。」(使徒行伝 3:19 英文訳)。

「すると、ペテロが答えた、悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう」(使徒行伝 2:38)。

私たちはこの聖句から、聖霊の賜物を受けるための準備段階を理解することができます。悔い改め (repentance) と、本心に立ちかえること (conversion) と、罪のゆるし (remission of sin) と、これに伴って罪をぬぐい去ること (blotting out of sin) の経験が必要なのです。これについて証の書は次のように語っています。

「聖霊は働きをするのに用いることができる通路を待っておられる。…神の霊は器に聖霊を受ける用意ができ次第、教会に注がれるのである」(彼を知るために 330)。

また、わたしたちは後の雨は「教会」に注がれるが、その準備はまず、個人ひとりびとりの経験であるべきだということを心に銘記すべきです。なぜかと言えば、「準備は、一人一人がしなければならない。われわれは、団体として救われるのではない」と言われているからです (各時代の大争闘下巻 224)。

そこで、わたしたちがはっきり理解すべき段階について確認していきましょう。

a. 悔い改め (repentance):

「悔いのない悔い改め」(第ニコリント 7:9, 10)。

「改革が行われないようなら、真の悔い改めとは言えない」(各時代の大争闘下巻 18)

b. 本心に立ちかえること : 改心 (conversion)

「悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて」(イザヤ 55:7)。

「彼らの大きな必要は、キリストがニコデモに説明された変化すなわち霊的新生であり、罪からのきよめであり、知識と聖潔とを新たにされることであった」(各時代の希望上巻 204)。

c. 罪のゆるし (remission of sin):

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば…その罪をゆるし」(ヨハネ第一 1:9)。

「主は泣いて悔い改める者を決してしりぞけられない。主は明らかに示すことがおできになることをだれにでも全部お告げになることはないが、主は、ふるえている魂に勇気を出しなさいと命じられる。主はゆるしと回復を求めてみもとに来るすべての者を快くゆるしてくださる」(各時代の希

望中巻 396, 397)。

「わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである」(テトス 3:5 ～ 7)。

ですから、わたしたちにとって最も必要かつ急を要する準備というのはこの悔い改めと本心に立ちかえること(改心)、そして罪のゆるしの経験なのです。これについて、次の証をお読み下さい。

「今日あなたがたは天の露を受ける準備、すなわち後の雨の注ぎを受ける準備ができるように、自分たちの器を清めなければならない。なぜなら、後の雨が注がれるが、神の祝福はすべての汚れから清められた一人一人の魂を満たすからである。わたしたちが、主のみ前から来る慰めの時にふさわしくなるために、すなわち聖霊のバプテスマにふさわしくなるために、私たちの心をキリストに明け渡すことが、今日のわたしたちのはたらきである」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 3 月 22 日)。

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『後の雨』とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が待たなければならない慰めを、受けることができなかった。…すべてのからみつく罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、誰一人として、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう」(初代文集 149, 150)。

ですから、わたしたちが覚えるべきことは、「すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るた

めに、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう』」ということです（使徒行伝2:38）。これが、すなわち、わたしたちが後の雨を受ける条件なのです。

d．罪の除去、もしくはぬぐい去る（blotting out of sin）とは何か？

「贖罪の日に、大祭司は会衆のための供え物をとり、血をたずさえて至聖所にはいり、それを律法の板の上の贖罪所に注いだ。こうして、罪人の生命を求める律法の要求が満たされた。次に、祭司は、仲保者として自分の上に罪を負い、聖所を出てイスラエルの罪の重荷をになった。彼は幕屋の戸口でアザゼルのやぎに手を置き、『イスラエルの人々のもろもろの悪と、もろもろのとが、すなわち、彼らのもろもろの罪をその上に告白して、これをやぎの頭にのせ』た。そして、これらの罪を背負ったやぎが送り出されるときに、罪はやぎと共に、永遠に民から切り離されたものと見なされた」（人類のあけぼの上巻420）。

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」（イザヤ43:25）。

e．この働きはいつから始まったのか？

「審判が指定されていた時、すなわち、2300日の終わる1844年に、調査と罪の除去の働きが始まった」（各時代の大争闘下巻219）。

「こうして、新しい契約が完全に成就する。『わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。』『主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない』（エレミヤ31:34, 50:20）。…調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め（原文ではrefresing〔活気づけ、回復の意〕）の時がくるときにぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている（使徒行伝3:19参照。同20節）。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行ないにしたがってお与えになるのである」（各時代の大争闘下巻217, 218）。

この証から、わたしたちは、罪の除去が行われる出来事について理

解することができます。ここに「調査審判―罪の除去―キリストの再臨」という過程、すなわち救いの計画の最終過程が表されています。しかし、わたしたちにとってさらに重要なことは、この働きが各個人の救いとどのような関係があるかということであり、この働きが個人的には、いつ行われるかということです。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである」(各時代の大争闘下巻 215, 216)。

「主はご自分の民が彼らのためにこれほど豊かに備えられた偉大な救いについて無知でいることなく、信仰において健全であることを望んでおられる。…キリストは、十字架上でご自分の身に罪の重いのろいを負って、罪に終りを告げてくださった。そして、ご自分を個人的な救い主として信じるすべての者から罪ののろいを取り除いてくださった。主は心の内にある罪の支配権を終わらせ、信者の生涯と品性は、キリストの恵みの純粋な特性を証する。イエスはご自分に求める者に聖霊をお与えになる。なぜなら、すべての信者が律法ののろいと責めから解放されるのと同様に、罪の汚れから救い出されるために、それが必要とされているからである。真理によって聖別して下さる聖霊の働きによって、信者は神の国にはいるのにふさわしい者とされる。なぜなら、キリストはわたしたちの内に働かれ、このかたの義がわたしたちに着せられるからである。このような聖化の過程がなければ、だれも神の国に入る資格は得られない。…そして、信者は、霊的成長においてイエス・キリストの満ちみちた徳の高さに至るまで、キリストのみかたちにかたどられる。このようにして、キリストは罪ののろいに終りを告げ、信者を罪の行動や感化から自由にして下さるのである」(ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ一巻 394 ～ 395)。

## 10. 後の雨の最終的な結果 (イザヤ 11:9)

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで

言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。』…わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ』」(黙示録 18:1 ～ 4)。

「弟子たちは与えられた賜物をしっかりと握りしめた。それから何が起こったであろうか。御霊の剣は、新たな力でとぎすまされ、天来の電光に輝いて、不信仰な者へと突き進み、一日に幾千もの人々が改心した」(患難から栄光へ上巻 32)。

「聖霊は彼らが一生かかってもなし遂げられないことを彼らのためになさった」(患難から栄光へ上巻 35)。

「その働きは、ペンテコステの日の働きに似ている。福音の開始に当たって貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりにおいて、収穫を実らせるために、『後の雨』が与えられるのである」(各時代の大争闘下巻 382)。

「夜の幻のうちに、神の民の間に起こる大改革運動の光景がわたしの前を通り過ぎた。多くの人が神を賛美していた。病人はいやされ、他の奇跡も行われていた。ペンテコステのあの大いなる日の前に表されたようなとりなしの精神が見られた。何百、何千人もの人々が、多くの家庭を訪問して、彼らの前に神のみ言葉を開いているのが見られた。人々の心は聖霊の力によって罪を悟り、真実な改心の精神が表された。…わたしは、感謝と賛美の声を聞いた。そこには 1844 年にわれわれが見たような改革が起こっているようであった」(教会への証 9 巻 126)。—各時代の大争闘下巻 381 ～ 383 を御参照下さい。

## 結論

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである」(エペソ 4:30)。

「御霊の約束は、ちょうど初期の弟子たちのものであったように、今日わたしたちのものである。神は、ペンテコステの日に、救いの言葉を聞いた人々に上よりの力を授けられたのと同じように、今日の男女にも授けてくださる。いまこそ、聖霊とその恵みを必要とし、このかたをその言葉どおりに信じるすべての者たちのものなのである。」(教会への証 8 巻 20)。

(54 ページの続き)

お父さまの家で自分たちのすまいとやすみと愛を見出すより、すきなたのしみをする時間を求めるのです。お父さまは待(ま)ち、呼んで下さいますが、おろかな子らはなみだをながして、お父さまの愛のまねきを拒 (こば) むのです。おなじまちがいをしてはいけません!

世の中では、たいへんな悪があります。堕落 (だらく) していて、とても残酷(ざんこく) なことがあります。「世には地境(じざかい) を移(うつ) す者、群 (む) れを奪 (うば) ってそれを飼 (か) う者、みなしごのろばを追 (お) いやる者、やもめの牛を質 (しち) に取 (と) る者、貧 (まず) しい者を道 (みち) から押 (お) しのける者がある。世の弱 (よわ) い者は皆 (みな) 彼らをさけて身 (み) をかくす。 見よ、彼らは荒野 (あらの) におる野ろばのように出で……彼らは着 (き) る物がなく、裸 (はだか) で夜を過 (す) ごし、寒(さむ) さに身(み) をおおうべき物もない。彼らは山の雨(あめ) にぬれ、しのぎ場 (ば) もなく岩 (いわ) にすがる」(ヨブ 24:2 ～ 8)。

あなたの造 (つく) り主があなたに提供 (ていきょう) してくださるすまいを見すごしてはいけません。詩篇記者 (しへんきしゃ) のようにつぎを選びましょう。「神よ、わたしの叫 (さけ) びを聞いてください。わたしの祈 (いのり) に耳を傾 (かたむ) けてください。わが心のくずおれるとき、わたしは地のはてからあなたに呼ばわります。わたしを導 (みちび) いてわたしの及 (およ) びがたいほどの高い岩 (いわ) にのぼらせてください。あなたはわたしの避け所、敵に対する堅固なやぐらです」(詩篇 61:1 ～ 4)

# クレープでサラダパーティ

〔材料〕４人分

クレープ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 全粒粉 | １カップ、 | オートミール | １カップ |
| 薄力粉 | １カップ、 | ココナツミルク | 1/2 カップ |
| 豆乳 | 1/2 カップ、 | 水 | ２カップ |
| 塩 | 小さじ１ | | |

サラダ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人参 | １本、 | 大根 | 10cm、 | セロリ | １本 |
| きゅうり | ２本、 | 玉ねぎ | 1/2 個 | ほか | お好みで |

ドレッシング

◆にんにく醤油◆

にんにく １片、醤油大さじ５、はちみつ小さじ１、ごま油少々

◆カシューナッツドレッシング◆

| | | | |
|---|---|---|---|
| カシューナッツ | １カップ、 | ココナツミルク | 1/2 カップ |
| 豆乳 | １カップ、 | レモン | 1/2 個、 |
| 塩 | 小さじ１、 | にんにく１片 | |

〔作り方〕

クレープ

オートミールをフードプロセッサーで細かくします。
すべての材料を水に入れて、しばらくねかします。
なじんだら、ココナツミルクと豆乳を入れてよくまぜます。
フライパンを熱してから、サラダ油をしいて、クレープを焼きます。

ドレッシング

◆にんにくしょう油◆

にんにくを包丁でつぶして、みじん切りにします。
材料を全部入れてまぜます。

◆カシューナッツドレッシング◆

ぜんぶの材料をフードプロセッサーにかけて混ぜます。
（さきにカシューナッツを４時間ほど水につけると口当たりがなめらかになります）

サラダ

すべての野菜を千切りにします。

サラダをクレープにまいてドレッシングでお召し上がりください。

お好みでいろいろにアレンジできます。生野菜をたくさんどうぞ！

## 教会プログラム ( 毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

## 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

# 神さまの保護（ほご）というすまい

「あなたはわたしの避け所（さけどころ）、
敵（てき）に対する堅固（けんご）なやぐらです。」（詩篇 61:3）

「中に入りたくない！中に入りたくない！」と小さい子が大泣きし、門柱（もんちゅう）に頭をもたれかけて、しゃくりあげていました。それはちょうど夏の夕がたのたそがれ時でした。その子は、自分の自転車（じてんしゃ）でたのしくあそんでいましたが、いまお母さんが、夜（よる）が来るからはいっていらっしゃいと、ここちよいおうちの玄関（げんかん）に立って、やさしく見つめながら、その子を愛情（あいじょう）のこもった声で呼（よ）んでいたのです。しかし、その子は入りたくありませんでした。そしてお母さんがあたたかく呼ぶたびに、ますますはげしくうめきごえをあげて、しゃくりあげるのです。彼が住んでいた町には、ちょうど同じときに、夜が来ても家（いえ）がなく、自分たちを歓迎（かんげい）してくれる愛にみちた声がないためにつらい思いをしている小さな子たちがたくさんいました。この男の態度（たいど）はなんとおかしかったことでしょう！それでありながら、その子はなんと人間（にんげん）らしくふるまっていたことでしょう！愛にみちたお父さまが、ご自分の子らをまねいてやさしい声で、家にかえって、わたしの保護のうちにやすみなさい、とかたられると、彼らはうめいて、「中に入りたくない！中に入りたくない！」と言うのです。彼らは夜の間も外にいて、

（51 ページに続く）